

明治維新の後、旧庄内藩士約3,000人が刀を鋌に替え、荒野を開拓し、日本最大の養蚕群を建設した松ヶ岡開墾場。庄内地域のみならず、日本全体の近代化にも貢献した“ジャパンスルク源流の地”です。松ヶ岡の開墾は、鶴岡市を中心とする庄内地域における絹産業隆盛の大きな契機となり、産業面だけでなく、文化面にも大きな影響を与えました。明治時代初期に全国的で行われた士族授産の開墾地の多くが、普通の農山村集落となっていった中で、松ヶ岡開墾場は開墾当時から現在まで施設・開墾地・経営方針を維持し、養蚕から製糸・製織・精練・捺染までの絹製品生産の一貫した工程を有形の文化遺産、すなわち“生きた業”として現在に継承する、国内で唯一の地域となっています。

【日本遺産魅力発信推進事業】

日本遺産観光ガイド養成事業

シルクの里の歴史散歩

講師：松ヶ岡開墾場

副理事長 山田陽介 氏

平成31年

3月20日 水 11時00分～

鶴岡商工会議所会館（鶴岡市馬場町8-13）

参加無料（要申込み）

【お申込み・お問合せ先】

鶴岡「サムライゆかりのシルク」推進協議会事務局
（鶴岡市役所観光物産課内）

0235-25-2111（内線545）まで

サムライゆかりのシルク

検索